



# 鬱証の弁証治療

黄 懷龍

## 一、概 論

鬱証とは、情志不暢によって気機が鬱滞して起きた病証である。

主な症状は精神的抑鬱、情緒不安定、胸脇脹満、怒りっぽかったり泣き出しやすく、喉に異物があるような感じ、不眠など、様々な複雑な症状がある。

神経症をはじめ、抑鬱症、心身症、更年期障害、ヒステリーなどによくみられる。

## 二、病因病機

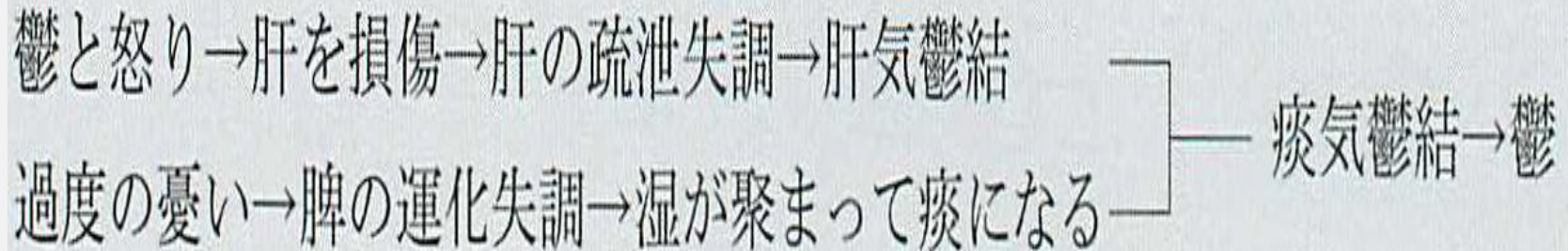
鬱証の発生は、憂鬱など七情の異常変化である。感情によって傷付けられ、肝気が鬱結し、徐々に五臓の気機を不和にさせて起きる。主には肝、脾、心の三臓に累が及んだことと、気血の失調によって起きる。

**怒則傷肝：**怒りが鬱積して気分が悪く、そのため肝が条達しなくなると、気が疏泄できなくて肝気が鬱結する。気鬱が長引いて火と化し、さらに気滯が血瘀を誘発して流れなくなる。もし肝鬱が脾に及び、心配が消えなかったり、疲労が脾を傷付ければ、脾が健運しなくなると、湿が蘊積して痰が生じ、気滯痰鬱となる。また湿濁が停留し、阻滯が消えなかったり、痰湿が熱と化すと、それが進行して湿鬱、食鬱、熱鬱などの証となる。

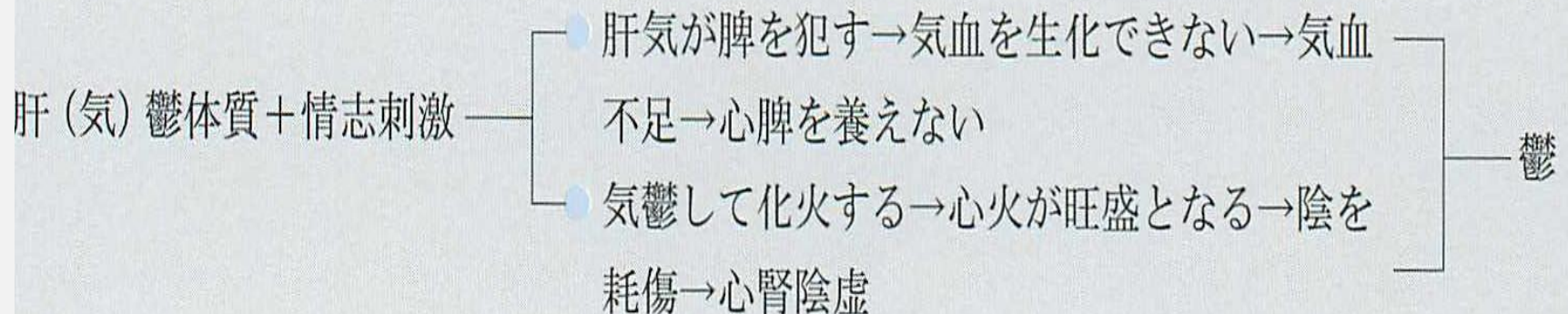
**思則傷脾**：思いが遂げられず、肝鬱のため脾が抑えられ、心気を消耗し、営血を徐々に消耗すると、心は栄養されなくなり、精神が留まれなくなる。それを憂鬱が精神を傷めたと呼び、心神不安を招く。それを『靈樞・口問』は「悲哀愁憂、則心動。心動、則五臓六腑皆揺(悲哀や憂いで心が動じる。心が動じると、五臓六腑がみな揺れる)」と言う。久しい鬱が脾を傷付けると、飲食が減少し、生化の源が乏しくなって気血が不足すると、心脾両虚になる。鬱積が長引けば、火と化して陰血を傷付けやすく、腎まで累が及んで陰虚火旺となり、そこから様々な虚損症状が発生する。

# (一) 病 因

## 1) 情志の失調



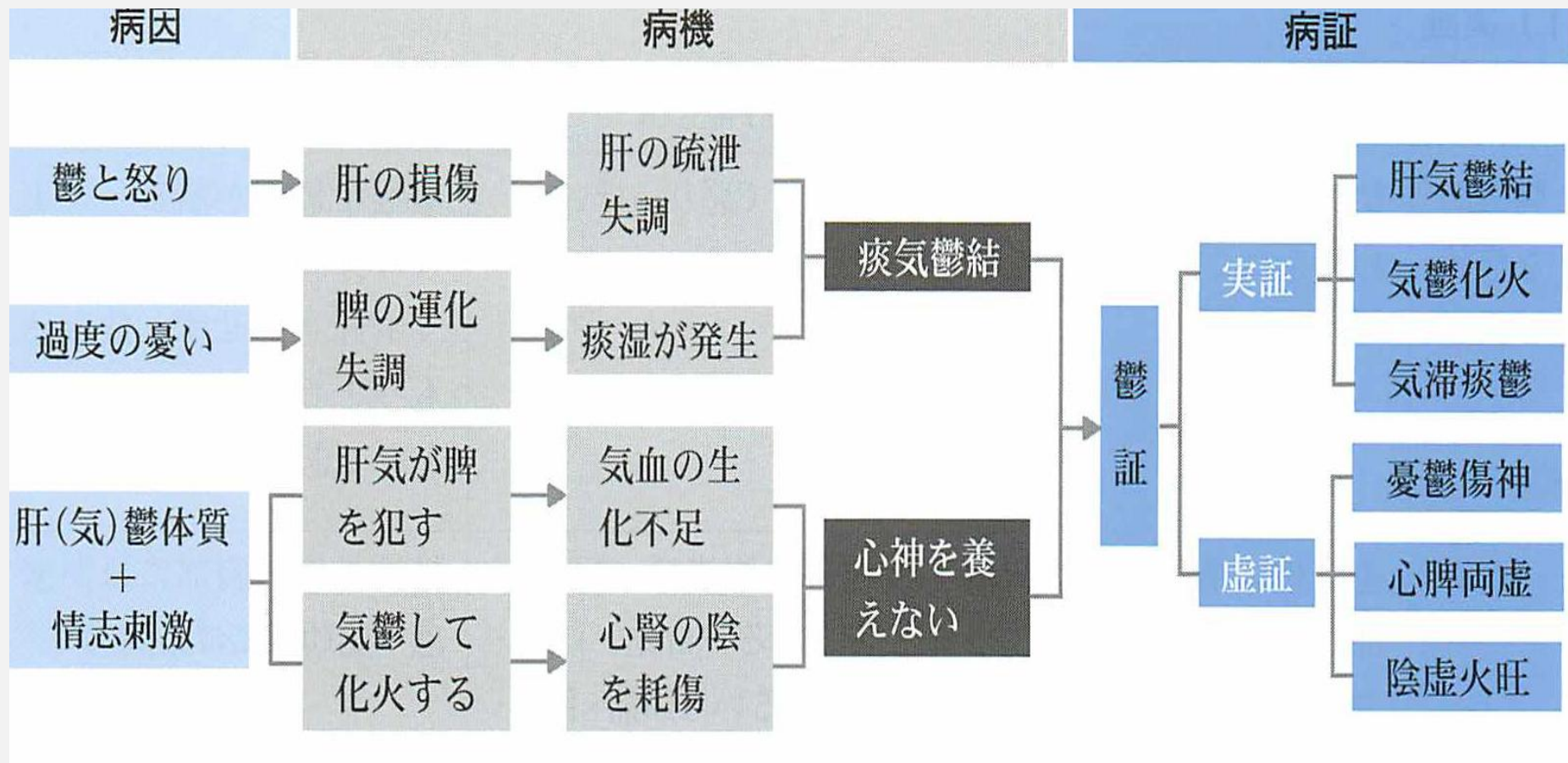
## 2) 体質素因



## (二) 病 機

鬱証基本病機は肝気鬱結、気機阻滯であり、病位ではおもに肝、心、脾、腎と関連する。

### 鬱証の病因病機



### 三、弁証論治

鬱証の初期は、情志に傷付けられ、気分が鬱結したものである。その症状は、憂鬱で気分が優れず、精神が振るわず、胸苦しくて脇痛があり、よく溜め息をついて、飲食しなくなるなどである。

『素問』は「木鬱達之」と指摘している。気機を疏通させることが、すべての鬱証を治療する通則となる。初期に気機を疏通させれば、病状が進行したり、他の病気が起きるのを予防するため、重要な意義がある。

当然、臨床治療では、虚実を明らかにする必要がある、実証なら舒肝理気(肝を緩めて気を整える)を主にし、その病状に基づいて、それぞれ行血、化痰、利湿、清熱、消食の薬剤を組み合わせる。虚証では、益気血扶正(気血に益して正気を助ける)が治療法となる。

## 「六 鬱」

六鬱とは、気鬱、血鬱、痰鬱、湿鬱、熱鬱、食鬱の六つである。

そのうち気鬱が始まりで、それによって湿、痰、熱、血、食などの諸鬱が形成される。

『景岳全書・鬱証』は、五気の鬱は病により鬱となったもの、感情の鬱は鬱のため病になったものだから、両者は異なると述べている。ここでは感情による鬱を重点にするが、特に気鬱を主とした病機と証治を検討する。

## (一) 類証鑑別

|         | 梅核氣                | 虛火喉痹                | 噎膈                     |
|---------|--------------------|---------------------|------------------------|
| 症状      | 咽喉部の違和感・嚥下困難と嘔吐がない | 咽喉部の違和感, 乾燥, 灼熱, 痒い | 嚥下困難・食後すぐ嘔吐            |
| 病因      | 情志憂鬱               | 喫煙・飲酒・喋り過ぎる         | 不適切な飲食                 |
| 病機      | 痰気が咽喉部を阻滯する        | 陰虚火旺によって咽喉を燻灼する     | 気・痰・瘀が食道を阻滯して, 津液を消耗する |
| 西洋医学の病名 | ヒステリー球             | 慢性咽喉炎               | 食道がん・賁門痙攣<br>食道炎・食道憩室  |

## (二) 虚実鑑別

|    | 実証                                     | 虚証                                 |
|----|----------------------------------------|------------------------------------|
| 病機 | 痰気の鬱結                                  | 心神失養                               |
| 症状 | 精神抑鬱・胸脇脹痛・咽喉中に何か詰まった違和感・ため息をつく・脈弦あるいは滑 | 精神恍惚・心神不安・心悸・不眠・悲しくて泣きやすい・脈細あるいは細数 |

### (三) 治療原則

原 則：疏肝理氣開鬱

實 証：疏肝理氣＋活血、降火、去痰、祛濕、  
消食

虛 証：養心安神、補益心脾、滋養心腎

# 実 証

## 1) 肝鬱気滯

**[症状]** 精神が抑鬱され、情緒が不安定。よく溜め息をつき、胸や脇に脹れぼったい痛みがあるが、気痛なので痛む場所が移動する。胃に不快感があってゲップし、腹が脹っ食欲がなく、嘔吐したり、大便が異常になったり、女性では生理が正常でなくなったりする。舌苔は薄膩、弦脈。

**[治法]** 疏肝理気、解鬱

**[方剤]** 柴胡疏肝散加減（柴胡、芍薬、香附子、枳殻、陳皮、川芎、鬱金、木香、甘草）

## (2) 肝鬱化火

**〔症状〕** イライラして怒りっぽく、胸中に不快感があって脇が張り、嘈雜があって吞酸する。口が乾燥して苦く、便秘し、頭痛目が赤い、耳鳴があったりする。舌質は赤く、舌苔は黄色、弦数脈。

**〔治法〕** 清肝瀉火、解鬱和胃。

**〔方劑〕** 丹梔逍遙散合左金丸（当歸、白芍、柴胡、茯苓、甘草、生姜、薄荷、牡丹皮、山梔子、黃連、吳茱萸、大黃）

### (3) 氣滯痰鬱

**[症状]** 咽中が不快で、何かが塞いでいるようで、吐き出すにも吐き出せず、呑み込むにも呑み込めない感じがする。胸が塞がれたようで、脇痛があったりし、舌苔は白膩、弦滑脈。

**[治法]** 化痰利気、解鬱

**[方剂]** 半夏厚朴湯加減（紫蘇、厚朴、茯苓、半夏、生姜、柴胡、芍薬、枳実、甘草）。

# 虚 証

## (1) 憂鬱傷神

〔症状〕 精神が恍惚とし、心神が落ち着かず、悲しんだり憂いてよく泣き、しょっちゅうアクビする。舌質が淡く、舌苔は薄白、脈は弦細。

〔治法〕 養心安神

〔方剤〕 甘麦大棗湯加減（甘草、小麦、大棗、当帰、黄耆、合歡皮、酸棗仁、柴胡、芍薬）

## (2) 心脾両虚

**[症状]** 心配ばかりして悩み、心悸してビクビクし、あまり眠れず健忘する。顔色が悪く、頭がクラクラして元気がなく、食欲不振。舌質が淡く、細弱脈。

**[治法]** 健脾養心、益気補血

**[方剂]** 帰脾湯加減（人参、黄耆、白朮、当帰、遠志、茯苓、酸棗仁、竜眼肉、木香、生姜、大棗、甘草）

### (3) 陰虛火旺

**〔症状〕** 眩暈、心悸、眠りが浅い、イライラして怒りっぽい。遺精して腰が怠かったり、女性では生理不順があったりする。舌質は赤く、脈は弦細で数。

**〔治法〕** 滋陰清熱、鎮心安神

**〔方劑〕** 滋水清肝飲加減（熟地黄、山茱萸、茯苓、当歸、酸棗仁、山梔子、牡丹皮、沢瀉、白芍、柴胡、山藥）

## 鬱証の常用方剂

甘麦大枣湯『金匱要略』：甘草、小麦、大枣。

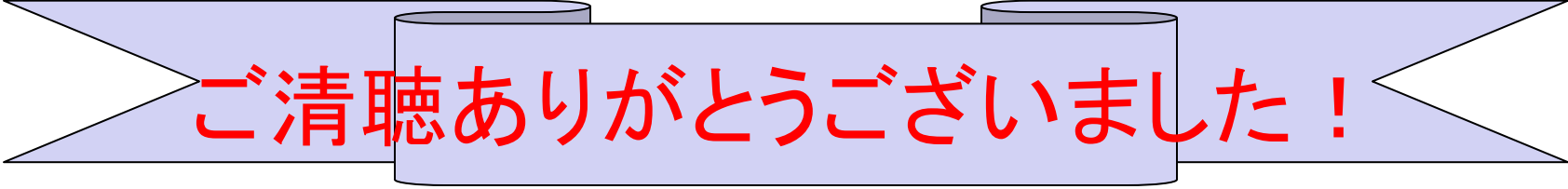
帰脾湯「済生方」：人参、黄耆、白朮、甘草、生姜、大枣、当归、遠志、茯苓、酸枣仁、竜眼肉、木香。

柴胡疏肝散『景岳全書』：柴胡、白芍薬、香附子、枳殻、陳皮、川芎、甘草。

滋水清肝飲『医宗己任篇』：熟地黄、山茱萸、茯苓、当归、酸枣仁、山梔子、牡丹皮、沢瀉、白芍、柴胡、山藥。

丹梔逍遥散『内科適要』：当归、白芍、柴胡、茯苓、甘草、生姜、薄荷、牡丹皮、山梔子。

半夏厚朴湯『金匱要略』：半夏、厚朴、紫蘇、茯苓、生姜



ご清聴ありがとうございました！